



Ⅱ 育 み

1 子育て

- ①幼児教育・保育の充実
- ②子育て支援の推進
- ③切れ目のない支援の推進

2 教 育

- ①地域との協働と信頼される学校づくり
- ②子どもの未来の礎となる
「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成
- ③生涯学習の推進
- ④多様なスポーツの推進
- ⑤文化・芸術活動の推進

3 歴史文化

- ①斎宮跡、文化財・文化遺産の
調査研究・保存・活用

Ⅱ 育 み

① 子育て

① 幼児教育・保育の充実

● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿



「第3期明和町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、待機児童の解消と幼児教育・保育のサービス内容の充実を図り、適正な定員管理と保育士の配置、施設整備に努めます。

● 施策における現状と課題

現 状 ①	課 題 ①
保育所への入所希望は、幼児教育・保育の無償化の施行や共働き世帯の増加等により増加している一方、幼稚園ニーズは減少する中、質の高い幼児教育と保育の一体的提供を図るため、認定こども園の整備を計画的に推進してきました。	既存施設の老朽化が進み、空調・給食設備等の更新に係る財政負担が増大しています。廃園となった施設の利活用についても検討していく必要があります。
現 状 ②	課 題 ②
認定こども園の整備により、就労支援機能と幼児教育機能の融合が進み、保護者の選択肢が拡大するとともに、前期計画期間中において4月1日時点の待機児童数は継続的に0人となりました。	年度途中での入所申込児童については、待機児童が生じることもあり、職員の確保により一層努めていく必要があります。

● 課題に対する今後の方向性

- ・子育て家庭が、それぞれのニーズに応じた教育・保育サービスを利用できるよう、職員（保育教諭など）の確保に努めるとともに、よりよい保育環境の検討・整備を進め、低年齢児保育の充実を図り、待機児童の解消に努めます。また、子どもたちがより安全で豊かに育っていけるよう、特別支援など教育・保育内容の充実を図り、CLMを活用した保育の質の向上に努めます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標 (2030年)
待機児童数	0人	0人

● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

「第3期明和町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子育て支援の地域社会と、子どもの健全な育成を支える社会の実現に努めます。

● 施策における現状と課題

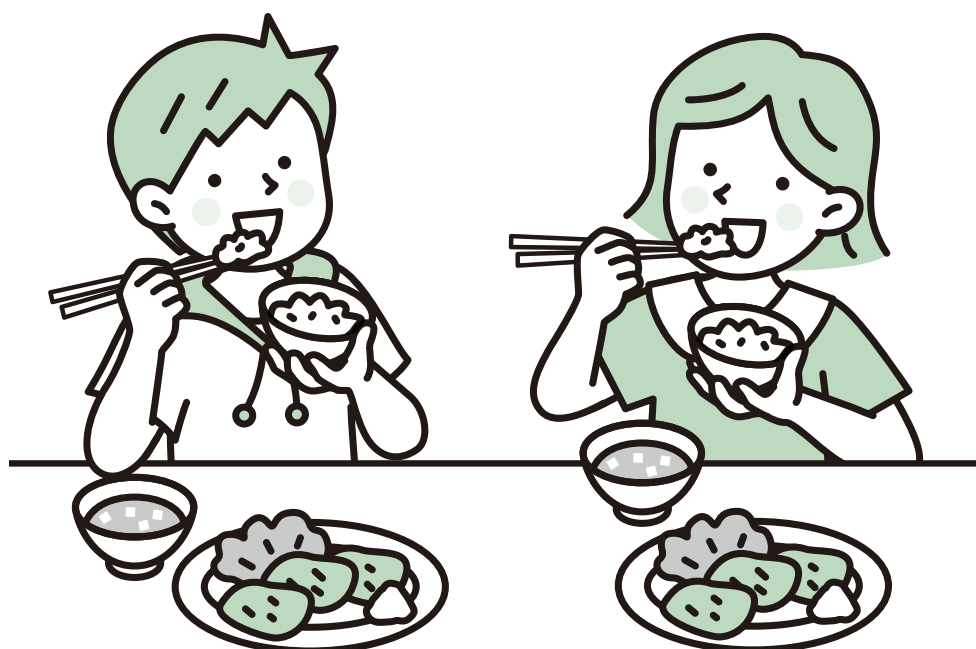
現 状 ①	課 題 ①
共働き世帯の増加や少子化など社会情勢が大きく変化するなかで、子育ての孤立化や、健全な子どもの育ちが阻害される状況も生まれ、親や子どもが不安や悩みを抱えています。	各家庭における子育ての不安や悩みは多種多様であり、専門的な相談支援や地域社会を通じた見守りが重要です。問題を深刻化、長期化させないために、保健師、保育士、臨床心理士等の専門家や専門機関が連携をしながら、子育て支援の充実を図り、より一層丁寧に対応をしていく必要があります。
現 状 ②	課 題 ②
少子化が進み、地域と関わりが薄れる現在、子どもがあらひのままの自分を表現し、安心して過ごすことのできる場所、社会性を育むことのできる場所をつくっていくことの重要性が増しています。	子どもが、自然と足を向けることのできる、楽しく魅力ある居場所を地域の中に多く生み出せるよう、地域の人々の力を借りながら取り組んでいく必要があります。

● 課題に対する今後の方向性

- ・就学前教育・保育施設を利用していない子育て家庭にとって、安心して子育てができるよう、相談や交流の場などの支援体制の充実を図ります。
- ・子どもたちをめぐる問題が複雑化するなか、学校や家庭以外で、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりに取り組む事業者の活動の支援と連携を行います。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標（2030年）
地域子育て支援センター利用者数	13,006人	14,000人
子ども食堂や自主的な 地域サロンの数（累計）	8団体	10団体



● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

子どもの発育・成長及び発達の流れを早期に発見し、支援の内容や方法を明らかにし、こども園・小学校・中学校等地域の中で子どもが安心して生活できるよう支援体制の充実を図っていきます。

● 施策における現状と課題

現 状 ①	課 題 ①
情報引継ぎツールであるパーソナルファイルの活用を促進しています。	連携の体制を整え、長期的な視点で支援をつなげていく必要があります。
現 状 ②	課 題 ②
個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成及び活用を進めています。	作成した計画の内容に沿って、日々の指導や支援に活かしていく必要があります。
現 状 ③	課 題 ③
松阪地区教育支援センター（さくら教室）と連携し、個々状況に応じた必要な支援を行っています。	個別のニーズが多様化しているため、きめ細やかに対応できる個別最適な支援体制の整備が必要です。

● 課題に対する今後の方向性

- ・保護者にパーソナルファイルの活用の意義を周知し、家庭や医療、福祉等の関係機関との連携を強化していきます。
- ・園・小・中学校の書式をそろえ、支援内容をより明確化し、教育的ニーズの適切な把握が行えるようにしていきます。
- ・児童生徒や保護者の意思を十分に尊重しつつ、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えられるよう適切な支援や働きかけを行っていきます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標（2030年）
パーソナルファイルの作成・活用100%	パーソナルファイルの作成 100% （令和6年度）	毎年、 パーソナルファイルの 作成・活用100%

● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

明和町小学校区編制にかかる基本計画に基づき実施した、第1期小学校区編制事業（明和北小学校への統合事業）後の教育体制について、これまで以上に学校や地域との連携を強化し、子どもたちが充実して学べる環境整備に努めます。

また、閉校・閉園となった施設が民間事業者等に有効活用され、新たな地域のコミュニティの場として連携・協働するための組織的・継続的な仕組みづくりを目指します。

● 施策における現状と課題

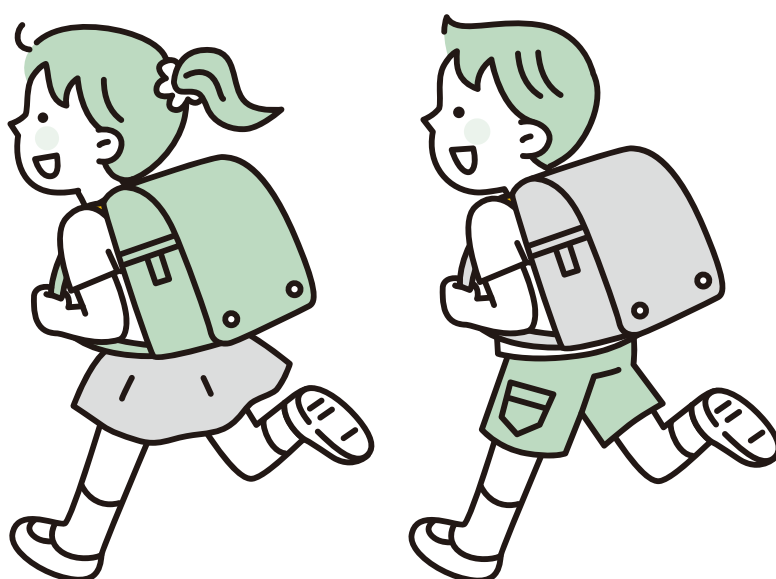
現 状 ①	課 題 ①
閉校・閉園となった施設の跡地利用を推進しています。	閉校・閉園未活用施設の維持管理を行うとともに、有効活用していただくための手法（公募方法等）を検討していく必要があります。
現 状 ②	課 題 ②
未統合小学校の施設長寿命化を行っています。	斎宮・明星小学校等の長寿命化対策を実施していく必要があります。
現 状 ③	課 題 ③
コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の推進を行っています。	校区編制が大きく変わった中で、学校と地域が連携し、地域全体で教育を推進する仕組みづくりが必要です。

● 課題に対する今後の方向性

- ・引き続き、民間事業者等とサウンディング型市場調査や地域住民との対話を行い、閉校・閉園となった施設全てを地域活性化に繋がる有効活用をしていただけるよう、努めていきます。
- ・明和北小学校開校後から計画的に斎宮及び明星小学校等の長寿命化対策工事を実施していきます。
- ・各学校の学校運営協議会を通し、学校と地域が連携・協働することで、地域とともにある学校づくりを推進します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標 (2030年)
閉校・閉園となった施設の 跡地利用契約件数	5 件	9 件
未統合小学校施設の 長寿命化対策実施校数	0 校	2 校



② 教 育

2. 子どもの未来の礎となる「確かな学力・豊かな心・健やかな身体」の育成

● SDGs との主な関係性



● めざすべき姿



変化の激しいこれからの社会を生きるため、知・徳・体の調和のとれた児童生徒を育てなければなりません。それぞれの力をバランスよく伸ばしていくために、学習指導要領に基づき、確かな学力の定着と向上を図るとともに、外国語教育等のこれからの時代に対応した教育や、特別支援教育の充実に取り組みます。

また、小中一貫教育のカリキュラムを通して地域の歴史、文化等を学び、子どもたちが地域への愛着や誇りを育むことにより、地域の将来を担う人材の育成を図ります。

● 施策における現状と課題

現 状 ①	課 題 ①
質の高い教育を提供できるよう、専門的な知識を持つ外部人材等を活用した授業サポート等に取り組んでいます。	引き続き専門的な知識を持つ外部人材等を活用することで、教職員の指導力向上を図り、公平で質の高い教育実施に努める必要があります。
現 状 ②	課 題 ②
学級満足度調査やいじめ相談窓口、なやみ相談フォームを活用し、支援が必要な児童生徒への組織的な対応を行っています。	児童生徒がいつでも誰にでも相談できる環境を整備し、安心して過ごせる教育環境づくりに努めます。
現 状 ③	課 題 ③
総合学習において、明和町の文化や産業等を学ぶ「めいわ楽習」を行っています。	ふるさとを大切に思う気持ちを育むため、学校教育の中で郷土文化を学習するカリキュラムを充実させていく必要があります。

● 課題に対する今後の方向性

- ・町内における授業の状況や外部人材の活用について、学校間で情報共有することで、学校単位でなく町内全体で教育の質向上に取り組めます。
- ・様々な悩みをかかえる児童生徒が相談しやすい環境の維持又は改善に取り組めます。
- ・学校での学習や体験を通し、子どもたちが明和町の文化を知る機会の充実に取り組めます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標 (2030年)
児童生徒の学級満足度	74%	75%



● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

多様な学習機会の拡充や学習成果の活用に繋がるよう、中央公民館とふるさと会館の効率的な運用と施設管理に努めます。また、若者・青少年の地域活動を支援し、地域全体で健全育成を推進していきます。

● 施策における現状と課題

現 状 ①	課 題 ①
中央公民館で公民館講座・同好会のほか文化イベント等を開催しています。	講座や文化イベントの継続、発展のため指導者の発掘や育成が必要です。 また、施設の老朽化対策が必要です。
現 状 ②	課 題 ②
ふるさと会館で図書、雑誌、地域資料等の整備、レファレンスサービスの充実に努めています。	利用者増、利便性向上のため電子書籍貸出サービスの導入について検討が必要です。 また、施設の老朽化対策が必要です。
現 状 ③	課 題 ③
関係団体と共に青少年健全育成の啓発や指導を行っています。	SNSの普及などにより、青少年問題が多様化、複雑化しているため時代に応じた活動が必要です。

● 課題に対する今後の方向性

- ・公民館講座や文化イベントについては、情報発信等による指導者の発掘、育成に努めます。施設の老朽化対策は計画的な施設修繕、改修を進めます。
- ・ふるさと会館については、指定管理者制度を活用するとともに、図書等の充実を図ります。また計画的な施設修繕、改修に努めます。
- ・青少年の地域社会での活動支援、有害環境や非行、犯罪から守るため関係団体と連携し、健全育成を推進します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標(2030年)
公民館講座・同好会受講者数 (年間)	1, 145人 (令和6年度)	1, 200人
明和町図書館登録者数 (累計)	18, 069人 (令和7年3月31日時点)	19, 000人

Ⅱ 育 み



● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

だれもがスポーツ活動を楽しむことができるよう、生涯スポーツの充実、環境整備に努めます。
コロナ禍により休止、縮小を余儀なくされた町民参加型のイベントを関係団体と連携し開催するほか、総合体育館等体育施設の修繕、改修を計画的に行っていきます。また、スポーツ推進委員や指導者の育成と活用も図ります。

● 施策における現状と課題

現 状 ①	課 題 ①
スポーツ協会をはじめとした各種団体をはじめ、地域のグループなどで競技スポーツから生涯スポーツまで幅広く活動が行われています。	以前はスポーツまつり、町駅伝大会といった町民参加型のイベントが開催されていましたが、新型コロナウイルスの影響もあり近年開催されていません。 規模を縮小しスポーツ交流会を開催しています。

現 状 ②	課 題 ②
総合体育館、総合グラウンド、テニスコートなどの体育施設の他、学校体育施設も利用可能です。令和7年度まで指定管理制度により管理、運営されていましたが、令和8年度より町の直営に移行します。	各施設の老朽化が進んでいます。 また、直営に移行することにより新たな課題が生じる可能性があります。

● 課題に対する今後の方向性

- ・ 関連団体と連携し、町民参加型のスポーツイベントを毎年開催します。
- ・ 計画的な施設の修繕、改修を推進します。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標(2030年)
町民参加型スポーツイベント 参加者数	301人 (令和6年度)	1,000人
総合体育館等利用者数	114,688人 (令和6年度)	150,000人
スポーツ大会・イベント実施数 (年間)	60回 (令和6年度)	65回



● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

町民の自主的な文化・芸術活動の振興を図り、幅広い分野とも連携した総合的な地域文化活動を推進します。活動の機会や情報提供をはじめ、文化・芸術環境の充実と支援を図ります。

また、地域の伝統文化・芸能活動の保存、継承にも努めます。

● 施策における現状と課題

現 状 ①	課 題 ①
町民文化祭を開催し、町民が文化、芸術活動に参加、体験できる機会を設けています。	文化祭をはじめとしたイベント等を継続、発展させていくために人材の確保、育成が課題です。
現 状 ②	課 題 ②
地域の伝統文化等の保存、継承のため関係団体に支援を行っています。	少子高齢化により地域の担い手が減少し、人材の確保、育成が課題です。

● 課題に対する今後の方向性

- ・町民の文化・芸術・芸能・伝統文化に対する関心や意識の高揚につながるよう、情報提供や環境づくりに努めます。
- ・子どもたちが鑑賞、体験することにより、文化の創造や郷土愛を育めるよう指導者の育成にも努めます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標 (2030年)
文化祭作品展示数	1, 0 1 7 点 (令和 6 年度)	1, 1 0 0 点

③ 歴史文化

1. 斎宮跡、文化財・文化遺産の
調査研究・保存・活用

● SDGsとの主な関係性



● めざすべき姿

史跡斎宮跡は、『史跡斎宮跡保存活用計画』に基づき、県と町の役割分担のもとで、地権者の協力を得て、発掘調査と土地公有化を推進し、保存、活用を図ります。町内全域の文化財・文化遺産については、『明和町文化財保存活用地域計画』に基づき、調査研究・保存、活用、環境整備に取り組みます。

● 施策における現状と課題

現 状 ①

史跡斎宮跡は、史跡指定以降、県・町の役割分担のもとに、計画的な発掘調査と土地の公有化が行われ、全容解明への推進と、史跡整備が行われてきました。

課 題 ①

土地の公有化は、地権者の協力を得て、34.08%に達していますが、公有化した広大な土地の維持管理費も増加しています。

現 状 ②

史跡斎宮跡の環境整備のため、『明和町歴史的風致維持向上計画』に基づき、各種整備事業を推進してきました。

課 題 ②

『斎宮跡保存活用計画』に基づき史跡整備地や公園の活用方法の充実を図り、関係団体等と連携を図りながら、さらに魅力あるまちづくりを行うことで関心度を高める必要があります。

現 状 ③

斎宮跡のみならず、水池土器製作遺跡、斎宮のハナショウブ群落、坂本古墳群、日本遺産の構成文化財など指定文化財が所在し、その保存と活用を行っています。

また、未指定の古墳や伊勢街道に関わる建造物等も多く、地域独自の風習や祭礼行事等も数多く存在しています。

課 題 ③

指定・未指定を問わず文化財・文化遺産を確実に後世に伝え、保存・活用する必要があるが、自然災害や盗難被害のリスクの増大や、少子高齢化による担い手不足などが喫緊の課題となってきました。

● 課題に対する今後の方向性

- ・『明和町歴史的風致維持向上計画』や『日本遺産を通じた地域活性化計画』に基づき、斎宮跡のみならず日本遺産の構成文化財や伊勢街道沿いの建造物の整備や活用などについて、地元住民や観光関係団体、民間事業者とも連携を深め、国の施策を活用しながら課題解決に向けて取り組みます。
- ・『明和町文化財保存活用地域計画』に基づき、地域住民等とも連携しながら地域総がかりで各種の取り組みを継続して進めていきます。

● 目標に対する状況を示す指数（KPI）

指 標	現 状	目 標 (2030年)
史跡斎宮跡公有化率 (指定対象面積：137.1ha)	34.08%	36.14%
文化財・文化遺産の 公開・展示	年3回以上実施	年4回

